

花き日記 第2回 バラ(山口県(有)司ガーデン)

フラワーロスゼロを目指す

山口県下関市の(有)司ガーデンは、約1.4haの園地で年間60~70品種のバラを栽培しています。

(有)司ガーデンでは花の旬を大切に環境負荷の小さい栽培と、戦略的な販路選択と商品展開を行っています。また、コロナ禍に、売れ残ってしまった花が大量に廃棄されたことを受け、フラワーロスゼロを目指して取り組まれています。

今回は、(有)司ガーデンのフラワーロスゼロを目指す取組をご紹介します。



出荷を待つ鉢バラ

花の旬、知っていますか

(有)司ガーデンでは、メインの色(赤、ピンク、白、黄、オレンジ)20品種とその他小規模な面積の品種を合わせて、年間60~70品種を栽培し、約27万本弱を出荷しています。

一般的に花を周年出荷するためには、冬に加温したり夏に冷却したりすることで、花に季節を錯覚させて栽培します。一方、(有)司ガーデンでは、過度な加温や冷却を行わず花本来の開花時期に合わせた栽培管理を行い、農薬等も使用量を抑え、環境への負荷が小さい栽培方法を取り入れています。この栽培方法は、山口県のエコファーマー認定も受けています。

また、夏場の高温の影響でバラの収穫量が減少するときは、バラの本数を補うために、バラと季節の草花を組み合わせた商品を直売所等で販売しています。実は、バラだけの商品よりも季節の草花とバラを組み合わせた商品の方が消費者から人気があるそう。直売所は、市場の出荷規格に比べ、出荷時の生産者側の自由度が高いため、見せ方を工夫した商品展開を行うことができるそうです。

中司代表取締役は、「花にも旬があることをもっと知ってもらいたい」と話されていました。花言葉や色形だけでなく、花の旬を意識することも、花の楽しみ方の1つではないでしょうか。

ガラス、クレヨン、お香も

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、結婚式等の花の業務用需要は大きく落ち込み、大量の花が廃棄されていました。

(有)司ガーデンでも当時は月2万本を廃棄していたそうです。売り先を失った花だけでなく、栽培過程で品物にならなかった花、まだ綺麗だけど1度の使用で廃棄されてしまう花など、花業界では多くの花が廃棄されています。そんな現状を受け、

(有)司ガーデンでは、フラワーロスゼロを目指して取り組まれています。

例えば、直売所で売れ残った鉢花を回収し、手を入れなおしてもう一度元気な状態にして再度出荷したり、廃棄される切り花を灰にしてガラス製品(花硝子)にしたり、ドライフラワーに加工、さらにはクレヨンやお香等様々な商品に形を変えて展開しています。

この取組は、廃棄される花だから価値が無いのではなく、形を変えて新しい価値を吹き込んであげる、そして廃棄される花でつくられた商品の認知度が上がると同時にフラワーロスについてより多くの人に知ってもらえる取組だと感じています。

中司代表取締役は今後、花だけでなく栽培や出荷過程で生じている資材ロスも再利用する取組を行っていきたいと話されていました。花業界や地域のことを考えて様々な取組をされている(有)司ガーデンに、今後も注目です。



花硝子

出典:(有)司ガーデンWebページ



クレヨン

お香



GARDEN TSUKASA

(有)司ガーデン
Webページ↓